

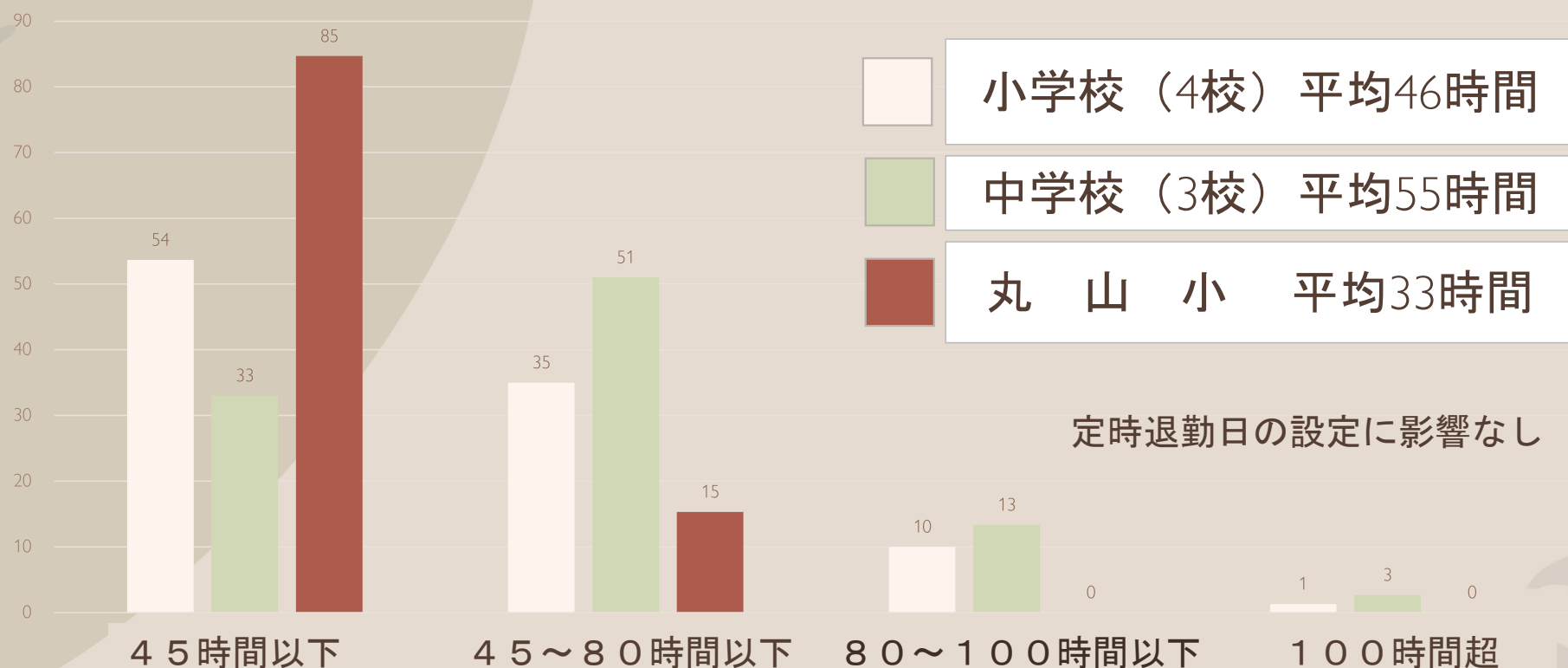


持続可能な社会の創り手を育む

働き方改革で学力・体力・学校力を向上させる取組

中標津町立丸山小学校 校長 横山 裕 充

教職員の時間外在校等時間（4～6月）



4月～1月現在 平均23時間

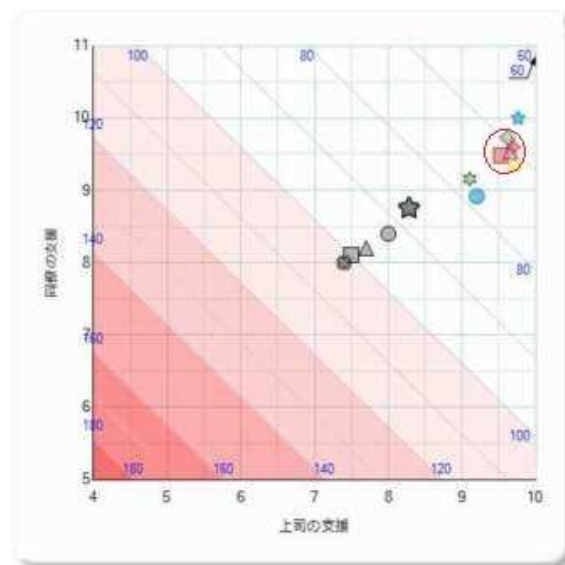
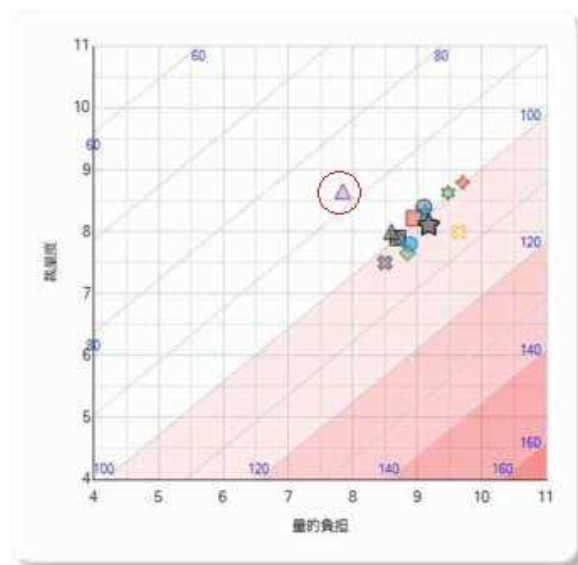
教職員のストレスチェックの結果から

職業性ストレス分析レポート - 2023年度 後期(9月~12月)

6/11 ページ

作成: ***** (2023年9月20日)

- ストレス判定図 - 【男女混合】



- 回答率：92.9%
- 左は量的負担×裁量度
- 右は上司×同僚の支援
- その他19項目中8項目で良いという結果
- 特に、「働きがい」と「活気」「仕事や生活の満足度」に良いという結果

認知能力


全国学力学習状況調査

新体力テスト



全国平均以上

学力も体力も全国平均以上




働き方改革とは 子ども主体の授業実践に尽きる

それはなぜか

働き方改革
＝時短で教育効果をあげる



目的をシンプルに
本来の目的のために




目的は教育目標
を実現すること

そのために・・・

学校の教育活動ですべきことは何

教員がしたいことは何



効果の上がる授業の実践
= 子ども主体の授業

子ども主体の授業の実践
教員は授業力向上が大きな願い



全員が同じ方向を向くことに



学校力の向上

子ども主体の授業で変わる教員の意識

分掌業務	子ども主体という視点で	全校で行う取組を分掌が提案する	> 必要な委員会を子どもたちが考える取組	> 掃除したい区域を子ども自身が選択する取組
研修の在り方	子ども主体の授業という視点で	子どもにとっての言動の理由は何か	全員が自分ごととして捉えられるものであったか	検討の後修正案をすぐ実行する
行事の精選	何を身に付けたいかという視点で	> 運動会は分散で	> 見通しがもちやすいので自分たちで運営できる	> 一人一人の出番が多く活躍する機会が増える
授業の在り方	何を使うかよりも子どもはどう動くか	地域の環境を使う	授業と日常の往還	地域が好きになる
	子ども主体の授業	において個別最適化	・協働的学びは	当たり前

(子ども主体の授業を実践するために)

管理職としてしてきたこと

必要な考え

- 地域の子どもは地域で育てる
～人と環境の活用、その教材性「今ある」の活用
- 授業における体験的活動の重視～記憶の把持、その体験の目的
- 発達段階を重視～特別支援教育の趣旨を生かす
- ICTの活用～子ども主体の授業を効果的に進めるために ICTで授業のスタイルが変わる（アプリの選定も）

環境整備

- 登下校指導は地域住民に
- 図書業務はボランティアに
- CS・地域学校協働推進委員の活用～授業でほしいゲストTの要請
- 教員のスタートカリキュラム

人的配置

- 主幹教諭～校務運営部 会所掌 分掌統括
- 分掌部長～年齢経験年数問わず
- 特別支援教育コーディネーター～特別支援統括
- 生活指導部～生徒指導 事案 児童会 いじめ・不登校等統括
- 研修部員～子ども主体の授業具現化できる ブロック毎に配置

コアチーム～教頭の負担軽減←

子ども主体の授業実践に 体験活動は必須

小学校 6年間の体験活動の系統

小学校

年度の教科横断的な学習内容を俯瞰（年間プログラム）

1年間

地域との繋がり
→地域学校協働推進
コーディネーター

日常

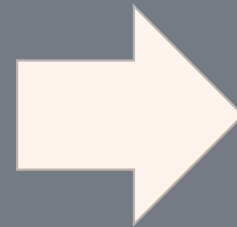


非認知能力の育成が重要

主体的に取り組む経験（活動する意欲）

感じ・考え・行為する主体としての自分（自己認識）

自分の拠って立つところという意味での原体験（心の居場所）



生きていく力

<丸山小学校の卒業生なら>

校訓 校歌 黒曜石

農園 太鼓 みどり川

「子ども主体の授業」の前提として

(校内研修資料メモ)

「子ども主体の授業」の前提となっていること

国として 「持続可能な社会の創り手を育む」 = 主体的に生きる人

人生～人として

自己の確立

- 自分は何者なのか
- 私が私になっていく
- <自分探しの旅>

人の役に立ちたい = 自尊感情～ Self-esteem



自己認識

- 自分は何ができるのか
- 得意なことは何か
- ・コミュニケーション力
- ・思考すること
- ・リーダー性

過去の自分 ← 「今の自分」が良いと過去の自分も良くなる = 自己肯定感～ Self-esteem → 未来の自分 (「今の自分」の連続)

これらを育み強化できる場としての学校

個人より集団であることによる
伸びの大きさ・気付き



身体性～為すことによって学ぶ
他(人・環境)との関係性

- 自分の拠って立つところ
- 主体的に行動すること
- 何ができるか発見とスキルアップ

ゆえに体験活動は必須

ここから逆算して、必要なことは何かを考えたものが、今行っていること。

- ・発達の段階
- ・記憶の把持
- ・授業の要素 ...

存在
＝
確かにここに
いる

ありがとうございました
くわしくは丸山小学校へ

中標津町立丸山小学校

<https://maruyama083.wixsite.com/maruyama>